

学校だより

27年度 第 62号

No.195

桜水だより

平成28年 3月10日

須賀川市立第一小学校

☎75-2851

あれから5年

本校では、9月に「命の大切さを考える日」、3月に「震災を考える日」の2日を定め、命の大切さを考えさせています。

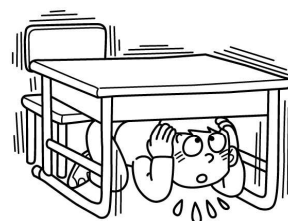
3月11日(水)には校長講話、避難訓練、全校生での黙祷などをします。それに加えて、各学級ごと数日の間に命の大切さや安全な生活などを指導します。校長講話では、本校の震災日当日から並木町校舎の生活までを提示する画像を見ながら振り返り、防災意識を高める指導をします。

ご家庭でも話題とされ「命の大切さを話し合う」、あるいは「万一の災害に備えた家族の申し合わせをする」などをされることをお勧めいたします。

「ふくしまは負けない 出前スクール」

3月9日、5、6年生は福島民報社の支援を受け、出前スクール「ふくしまは負けない」を実施しました。富岡町社会福祉協議会の吉田恵子さんをお招きし、富岡町の震災時、あるいは震災を乗り越えようとしてきた様子などをお聴かせいただきました。吉田さんは、現在も避難生活を送られながら、社会福祉協議会職員として避難者支援をされています。

震災を忘れるのではなく、震災時を振り返り、それを乗り越えて前向きに進もうとする気持を持ち、防災意識を高めることをねらいとしての実施でした。



【吉田さんのお話から抜粋】

津波は、火災や地震とは異なる。津波では、家族を心配して家に戻ったために津波に襲われ、命を落とされた方が実に多い。「自分の命は自分が守る」ことは、当然だが、津波や川の氾濫では「迎えに行く」「来てもらう」を考えてはいけない。迎えの人の命が危うい。

津波や川の氾濫だけは、別なのである。「落ち着くまでは、自分の命は自分で守る。その後で迎えに来てもらう」ことを確認しておいてほしい。迎えに行けば、命を失うかも知れない。

万一を考えて非常食を準備しておくことは良いこと。チョコや菓子など、自分の好きな物も入れておくと、ストレスの軽減になる。

食べることは大切だが、2日間食べなくても我慢できる。しかし、トイレを一日我慢すると体調を崩してしまう。非常食に加えて、段ボールとビニル袋という簡易トイレも準備しておくが良い。

原発事故後の6月下旬、富岡町の住民に2時間の一時帰宅許可が下りた。1つの世帯1人。2時間限り。30リットルのゴミ袋大のビニル袋1枚。「袋に入る範囲で持ち出して良い」。

何を持ち帰るか、家族で繰り返し相談した。どの家庭の子どもたちも「ゲームを持ち帰る」ことを、すぐにあきらめた。あなたなら、何を持ち帰ってほしいとお願いしますか。